

水 ニュースUP

おおさか発・プラスアルファ

ご意見、ご感想は〒530-8251 毎日新聞「プラスα・ニュースUP」係。郵便、ファクス(06・6346・8104)、メール(o.talk-news@mainichi.co.jp)へ。

「ヨード欠乏症」根絶にかける

海藻などに含まれるヨード(ヨウ素)の摂取が不足すると、甲状腺の機能が弱くなる。ヨード欠乏症といい、ユニセフと世界保健機関(WHO)の調査では、世界で約7億人が苦しみ、中でも重症者の多い国がネパールだ。NPO法人「ネパール・ヨードを支える会」を設立、私財もなげうち撲滅を目指す理事長を紹介したい。

学芸部

澤木政輝

回復したが、「とても他人事ではない」と予防支援に乗り出した。画家デビュイは、資金稼ぎのための決断だった。
■「ユニセフ式」限界
世界的にこの病気は、食塩にヨードを添加するユニセフの対策で減りつつある。ネパールの対策が遅れているのは、従来の岩塩が好まれることに加え、岩塩より高価なヨード添加塩の普及率が低いこと、輸送手段や保管状態の悪さから「潮解現象」が起こり、添加されたヨードが流れてしまふことなどが原因だ。
ヨード添加塩頼みの対策に限界を感じた熱田さんの呼び

ヨード欠乏症 海から離れた山岳地帯に多く、のどに拳大のこぶができる甲状腺腫と、甲状腺ホルモンの分泌不全から心身の発育障害を起こすクレチン症の2種類の症状がみられる。クレチン症は重い場合、起立や歩行が困難となり、重度の知的障害も引き起す。リスク人口は世界総人口のほぼ3割に当たる約16億人(ユニセフ、WHO調べ)。ネパールでは罹患率(りかん)率が4割強、リスク率は実に9割以上に上る。

ネパールこぶ取り物語

ネパールの山岳部でヨード欠乏症がまん延したことを示すもの。ネパールの人々のため、我々は21世紀のこぶ取りじいさんになりたい」と話している。この4年間、精力的な活動ぶりに触れてきたが、遠くヒマラヤのふもとの人々に思いをはせ、古希を過ぎて啓発と資金集めに東奔西走する姿に頭が下がらぬ。私も微力ながら、取材者の枠を超えて協力したいと、08年のNPO設立当初から会費を納め活動に参加してきた。日本の食文化から生まれた昆布ミネラルが、痛ましい病気を駆逐する決定打になればと願うばかりだ。



孫の病きつけ
その人、熱田親蔵さん(74)に初めて出会ったのは今から4年前。かつて三洋電機でシングルライフ向け家電ブランド「HIS」を大ヒットさせた熱田さん。その後、大学教授に転身し、趣味で長年続けてきた水彩画でのプロデビューに向けて、『第3の転身』を圖っていた。動機を聞くと、「実は……」と語り始めたのがヨード欠乏症の話だった。ネパールで栄養指導のボラ

を知った。妊娠中のヨード摂取不足が原因だった。孫は日本で3年がかりの治療を受け

自力で起き上がれるまでに回復したスリージャン君(前列左)と熱田さん(同右)
ネパール・チウウタラ村で07年1月、ネパール・ヨードを支える会提供のネパールのヨード欠乏症の現状を報告するメグ・ラジ・パンザラさん(神戸市中央区の本ジッコ本社で5月、澤木撮影)



掛けて、食品大手・フジッコ(本社・神戸市中央区)が全面協力し、昆布ミネラルのサプリメントを開発。加工前の昆布を湯通しした湯に残ったミネラルを抽出して作るこのサプリは、体に優しく吸収されやすいのが特徴で、食塩を含まないため高血圧や糖尿病の患者も服用できる。
首都カトマンズから車で3、4時間の山岳部にあるチウウタラ村のスリージャン君(当時6歳)は、生まれつき手足の力が弱くて自力で起き上がれず、耳と言葉が不自由。典型的なクレチン症の症状が

■昆布サプリが効果
02年から3年がかりの補給プロジェクトでは幼児のクレチン症が改善、成人のこぶが軽減するなど多くの効果が確認された。07年6月からは、ネパール最大のトリブバン大医学部や国立チウウタラ病院と提携、妊婦へのヨード補給と、生まれた赤ちゃんの追跡調査を実施している。

に、効果的な昆布ミネラルカプセルによる補給を進めたいと訴えた。
支える会の理事としてもかわるフジッコ専務・奥平武則さんは「昆布使用量日本一のフジッコとしてサプリの無償提供を続けている。今後もODAの支援物資としての活用や昆布を肥料とした土壌改良など、日本にできることはたくさんあるはず」と語る。
熱田さんは「昔話の『こぶ取りじいさん』は、かつて日本も山間部でヨード欠乏症がまん延したことを示すもの。ネパールの人々のため、我々は21世紀のこぶ取りじいさんになりたい」と話している。この4年間、精力的な活動ぶりに触れてきたが、遠くヒマラヤのふもとの人々に思いをはせ、古希を過ぎて啓発と資金集めに東奔西走する姿に頭が下がらぬ。私も微力ながら、取材者の枠を超えて協力したいと、08年のNPO設立当初から会費を納め活動に参加してきた。日本の食文化から生まれた昆布ミネラルが、痛ましい病気を駆逐する決定打になればと願うばかりだ。

地調査を担当する同大学講師で公衆衛生感染症研究所副代表のメグ・ラジ・パンザラさんは、5月に来日し中間報告を行った。「特にリスクの高い幼児と妊婦を救うため

同会は新規入会、募金を呼び掛け(郵便振替0099009-124106)。問い合わせはネパール・ヨードを支える会(072・824・2460)。